

7日目：アユタヤ史跡公園での講義（アユタヤ時代の歴史、文化）と史跡公園見学

8日目：移動（バンコク→サムットプラカン）

：講義（塩田による製塩と環境問題、塩生植物の生理学）

：移動（サムットプラカン→ダムナーンサドゥアック）

：講義（デルタの土地利用、沿岸湿地部の農業技術）、園芸農家見学と聞き取り調査

：移動（ダムナーンサドゥアック→カセサート大学カンペンセンキャンパス）

：講義（熱帯園芸の発展と課題）、国際野菜センター見学、実験圃場見学

：移動（カンペンセン→バンコク）

9日目：移動（バンコク→チャチェンサオ）

：講義（内陸エビ養殖と環境問題）、エビ養殖業者への聞き取り調査

：移動（チャチェンサオ→サケラート環境研究所）

：講義（熱帯林植生と動物多様性）

10日目：講義（熱帯林植生と植物多様性）、落葉フタバガキ林と常緑林の見学

：移動（サケラート環境研究所→パクチョン）

11日目：講義（タイの食文化）、パクチョン市場における聞き取り調査

：移動（パクチョン→パタナニコム）

：講義（タイにおける植林の問題点、平原部の土地利用と環境問題）

：移動（パタナニコム→バンコク）

12日目：成果発表会

13日目：移動（バンコク→関西空港）

（コメント） 受講者は、5月に行われる説明会に必ず出席すること。説明会の日時・場所は別途掲示する。研修旅行ならびに研修前の講義は、夏季休業期間中に行う。伝染病・自然災害・政情など研修先の事情により臨地研修ができないことがありうる。その場合、国内での集中講義に振り替わることがあるが、支払った費用の一部は戻らないことがある。

[履修要件]

旅行費用は自己負担。必要な金額については説明会で周知する。旅行費用のおもなものは、往復航空券代と現地宿泊費および食費であるが、航空券代は世界情勢を受けて変動が激しく予測が難しいものの宿泊費と食費は国内よりも安価である。本人および保護者が自己責任の原則を了承の上、必要な保険等をつけること、海外滞在リスクを十分認識し自らを律することができることも、受講の前提となる。また、6月に予定されているタイ側交換留学生受入行事への参加を推奨する場合もある。

安全講習の受講、学研災付帯海外留学保険への加入が確認できない学生は、海外セミナーに参加することはできない。

[成績評価の方法・観点]

帰国後提出のレポートの内容、および事前講義への出席、研修への参加状況と取り組み姿勢、現地での成果発表会での発表内容により評価する。成績評価の詳細は事前講義で説明する。

[教科書]

使用しない

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

事前講義の内容を十分に理解、復習し、現地研修での準備を入念に行うこと。

[その他（オフィスアワー等）]

オフィスアワーは設けないが、下記のメールアドレスで、随時質問等を受け付ける。

higuchi.hirokazu.2a@kyoto-u.ac.jp

なお、現地研修は採点報告日（8月中旬）以降に実施するため、成績報告が遅れる場合がある。

※本科目は、現地における大規模災害の発生や治安状況の急速な悪化、感染症等の急拡大によって不開講となる可能性があります。

[主要授業科目（学部・学科名）]